

イ	羅馬一〇九
ロ	哥羅一〇三
ハ	提摩前一〇九
ニ	提摩前一〇九
三	提摩前一〇九
四	提摩前一〇九
五	提摩前一〇九
六	提摩前一〇九
七	提摩前一〇九
八	提摩前一〇九
九	提摩前一〇九

新約全書使徒パウロテサロニケ人に贈れる後書

一 我儕の父なる神および主イエスキリスト  
 二 在テサロニケ人の教會に書を贈るニ願くハ我儕の父なる神及び主イエスキリストより爾曹恩寵と平安を受よ  
 三 兄弟よ我儕ながらに就いて恒に神に感謝すべき也これ理に合ふこと也  
 四 互に愛すること篤く成たれば是故に我儕ながらの爲に神の教會の中に誇る蓋ながら窘迫と患難の中に在て忍耐と信仰を存バなり  
 五 これ神の義の表あり爾曹をして神の國に入べき者ならしめん爲あり爾曹の爲に患難を受去蓋ながらに患難を加る者に患難を以て報ひ患難を受る爾曹にハ我儕と偕に平安を得とを以て報ひ神の公義されバ此事の事ハ主イエスキリストの火獄の中に在て其能力の諸使と偕に天より顯れん時にあり  
 六 八 即ち神を識ざる者および我儕の主イエスキリストの福音に服ひざる者に報を予ムカれば主の面と其勢の榮光より離れて

新約全書使徒パウロテサロニケ人に贈れる後書

六	事を誇しを爾曹記憶せざる乎彼をして其時に至りて現れしめん爲に今
七	かれを抑る者を爾曹云るも其時不法の隠たる者すべし今これ抑
八	るもの除るゝまで隠をり其時に至りて不法の者あらんべし主イエス
九	其口の氣を以て彼を滅さん其臨ると言發す所の榮光を以て彼を廢せん
十	彼サタンノ行爲に循ひて各様の傷なる能は微と奇跡と加つ不義の諸
十一	論議を以て顯れかの楡巨者の中に在り蓋かれら眞理を愛するの愛を受
十二	して彼等の中に働かしむこれ凡て眞理を信せず不義を好む者の罪を定
十三	んとて也主に愛せらるゝ兄弟も爾曹の爲に我儕常に神に謝すべき也
十四	ろの神始より爾曹を簡び眞理を信だることを靈の聖を蒙ることにて因て救
十五	を得しめ給へば也神われらの福音を以て爾曹を此福に召き給へり爾曹
十六	をして我儕の主イエスキリストの榮光を得しめん爲なり是故に兄弟よ
十七	爾曹堅く立ちつかつ或は我儕の言あるひに我儕の書に因て教を受たる傳を堅

十	賢者く亡る罰を受ん其時に即ち主の臨りて其聖徒に由て榮光をうけ諸
十一	の信者に由て讚を得ん其日なり爾曹も我儕の証を信する者なり此に就
十二	て我儕の爲に祈るに我儕の神爾曹をして召を受べき者となし
十三	又能力を以て爾曹の諸の善願と信仰の行を成就せしめん事あり此我儕
十四	の神と主イエスキリストの恩に由て我儕の主イエスの名ならんの中に
十五	榮られ亦かんながら彼に在て樂られん爲なり
十六	爾曹兄弟よ我儕の主イエスキリストの臨り給ふこと及び我儕が彼の所
十七	に集ることをに就て我儕願ふに爾曹あるひに靈により或は言に由あるひ
十八	に我が贈れるに似たる書に由て主の日の申既に來るとて心を動かし且擾
十九	こと莫らんことを誰にの法を以てするとも爾曹欺かることを勿れ蓋
二十	さきに道を離るゝ事なく且罪の人即ち楡巨の子現るゝ事なく其日きた
二十一	らじかれ凡て神と稱る者また人の拜む所の者に敵し之より超て己を尊
二十二	くし神の殿に坐して自ら神なりと爲に至るわれ爾曹の中に在しとき此

